

地域おこし協力隊のふくしま散歩!

私は関東にいた時、夏の間は出来るだけクーラーの効いた部屋から外に出ないようにしていた程暑いのが苦手なんです。が、野菜によっては温暖化で気温が上がった事で道南でも作れるようになった物があります。今回はその野菜の1つであるサツマイモについて御紹介します。

サツマイモは中南米原産で1600年頃日本に伝播しました。その後薩摩地方（鹿児島県）周辺で栽培が行われ、江戸時代の8代将軍徳川吉宗の時に儒学者の青木昆陽が関東地方に普及したと言われています。

北海道については長い間栽培された記録が無く、平成15年になって厚沢部町で焼酎の原料用として栽培され始め、平成25年に北斗市の農業試験場と滝川市の花・野菜技術センターで道内向けのサツマイモ栽培マニュアルが作られました。

サツマイモは痩せた土地でも育つので昔から非常食として有効活用されて来ました。戦時中は毎日芋しか食べる物が無く、逆に芋嫌いになってしまったという年配の方も良く聞きますが、それだけいざという時の非常食として育てやすい物なのだと思います。

栽培につきましては、豆類と同じようにサツマイモも自分で窒素が作れるので肥料を入れるならリン酸・カリが多い物を使った方が良いみたいです。とは言いましても自分で確認した事が無いので今年は実際に畑でサツマイモ栽培の実験をしてみます。25mの畝を肥料を入れる所と入れない所で半々にして、更に肥料を入れる所の半分を砂を入れます。これで収穫にどういう差が出来るのか、また子供達に掘ってもらおうと思います。



地域おこし協力隊 野口 和也

今年のサツマイモの畝

無肥料
肥料
肥料+砂



地域おこし協力隊 猪熊 矩嗣

少しずつ気温も上昇し始め、気がつけば今年も半分が経過した所でありますが、町民の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。私とは言うのと、6月は夏の時期を迎える様々なイベントの準備期間でありました。その中で特に印象に残ったのが、毎年この時期に行われる横綱記念館内の土俵整備です。

九重部屋より呼び出しの重太郎さん、重次郎さん、(株)石岡組の皆さまと3日間に渡り作業しました。

初日は5時間近く水撒きをして土埃をおさえ、土を掘り起こししやすいように軟らかくします。2日目はスコップなどで土を掘り起こしたあと、平らに戻します。3日目は写真にある専用の「タタキ」「タコ」などと呼ばれる道具で土を固めながら平らになります。その後は九重部屋の2人が土俵の円をかたどったり、土を削ったりし、最後に仕切り線を白いペンキで土俵に描くと、一気に場の雰囲気が高まります。

福島町にいと毎夏、力士を見かける事ができたり、何かと相撲のことは身近に感じていました。この様な裏方の業務体験や、見学をした方は少ないのではないのでしょうか。まだまだ知らない発見や魅力がたくさんあると改めて感じる事が出来た3日間でした。

今年も横綱記念館が開館20周年でもあります。この機会に町民の皆さまも改めて横綱記念館に足を運んで頂き、それぞれの新たな発見を見つけて欲しいと思います。

